

# ことぶき共同診療所だより

第 35 号

2013 年 7 月 10 日 発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F  
電話とファックス 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院・資料室)

E-Mail [info@kyoudouclinic.com](mailto:info@kyoudouclinic.com)

<http://kyoudouclinic.com>

発行：医療法人ことぶき共同診療所

## 目 次

|                                         |         |
|-----------------------------------------|---------|
| 2013 年上半期 振り返り .....                    | 鈴木 伸 ②  |
| 診療所の疾患別患者数の変化 .....                     | 宮崎 伸一 ④ |
| 最近の公園では .....                           | 田中 藤枝 ⑤ |
| 杉本貴美子さん、逝く.....                         | ⑦       |
| 田中俊夫、佐藤捷世、佐藤八洲子、三森妃佐子、矢島雅子、田中藤枝         |         |
| “診療室から”(31) - 月に二回のご挨拶 - .....          | 弓野 綾 ⑬  |
| 職員自己紹介 .....                            | 結城 陽子 ⑭ |
| 寿町地域ニュース・あらかると('12 年 11 月～'13 年 6 月) .. | 松本 一郎 ⑭ |
| 診療所日誌('12 年 12 月～'13 年 6 月) .....       | 矢島 雅子 ⑮ |
| 共同診療所・鍼灸院ガイド .....                      | ⑯       |

## 2013 年上半期 振り返り

早いもので、この間正月が来たかと思っただけもう 6 月の梅雨入りとのこと。二代目診療所長になり、日々の診療に追われているあいだにもう一年。毎回同じことを書いているような気もするのですが、とにかく「光陰矢の如し」を身をもって感じる年になりました。というわけで、診療所の上半期を振り返ってみようと思います。

### 【田中俊夫先生講演会

### ～人生万事塞翁が馬～】

3 月 24 日、L プラザにて当院名誉院長の田中俊夫先生講演会が開催されました。俊夫先生の座右の銘である「人間万事塞翁が馬」を地で行くような俊夫先生の人生体験を聞くために、約 100 人もの大勢の方々にお集まりいただき、俊夫先生のいつものゆっくりとした語り口調からその半生が語られました。

文化人類学を学んでいた一学生が、「勉強なんてしている場合じゃない」とケースワーカー(CW)になり、寿町に勤めるようになったものの、様々な活動を経てドヤの労働者と連帯し、CW でありながら、労働者のために「仕事と金を」と行政に

戦いを挑んだ 1970 年代。その後、CW 止めざるをえなくなってから 40 代後半での医学部受験。脳梗塞を経て診療所を立ち上げるまでを当時の社会情勢を振り返りつつ語られました。

話のなかで見習うべきは、「必要なもので、今なかったら自分たちで作ってしまえばいい」というそのパワーや姿勢です。昨今、面倒くさいといって、問題が見えているのに仕事や家庭のせいにして(仕事や家庭も大事ですが)見ないようにしたり、考えないようにしている自分がおりますが、俊夫先生やその周囲の人たちを見ると良くも悪くも社会にコミットしようとする姿勢が強かったなあとと思います。僕には診療所を立ちあげるような先発投手としての力量はありませんが、せっかく立ち上げて頂いた診療所を次の世代に引き継ぐリリーフ投手になればと思います。というわけで、これからも診療所をよろしくお願いします。

### 【高齢化で亡くなる方が増加】

現在寿町は半数以上が 60 歳を超え、高齢化が進んでいるのですが、ここ半年で古くから馴染みの患者さんが亡くなら

れるケースが増えました。

古くからの患者さんの A さんは、東北出身のがっしりした体格の方でした。服は一年中ランニングシャツにサンダルで、診療所の近くのローソン前に朝から座り、日がな1日周囲を観察していました。夏の暑い時期には地べたに座りながら「ガリガリ君」を美味しそうにかじっており、その姿をみると「夏だなあ」と思いつつ「僕もガリガリ君食べたいなあ。でも、かじると歯にしみるし・・・」などと葛藤するのが常でした。しかし、そんな A さんも昨年秋ごろより体調を崩すことが増え、年末の 12 月 5 日には入院先の病院で無くなってしまいました。今年は夏が来ても、もうあのガリガリ君をかじる姿がみられないのだなあと思うと無性に寂しく思います。A さんのご冥福をお祈りします。

#### 【杉本貴美子さん亡くなる】

また、当診療所の発起人で、診療所の初代受付嬢でもあり、「キミちゃん」の愛称でしたしまれていた杉本貴美子さんが 1 月 20 日に亡くなられました。貴美子さんは、飾らない気さくな方で、最近では、当診療所の稲子農場の小屋の管理などもして頂いていました。ご冥福をお祈りします。

#### 【大類先生、お世話になりました】

関係諸機関の方々にはご迷惑をおかけしております

昨年冬に長年勤務されていた菊田先生が診療所を辞められ、また、宮崎先生も勤務先の大学の仕事が忙しくなった関係で火曜日の Dr が二人もいなくなってしまう、新規の患者さんの受け入れを制限せざるを得ない状態が続いてしまっております。そんな医師不足の折、短期間でもよいならと3か月の契約で、4 月から大類隼人先生が神戸から助っ人で来て下さいました。大類先生は、現在神戸に拠点を置きながら、ハイチで結核診療ができる地元の医師を育てようと「Future Code」という NPO を作り日夜活動されています。（詳細は以下のウェブでどうぞ。

<http://www.future-code.org/> )

もともと、東日本大震災や、海外での貧困地域の診療経験が豊富な先生は、当院でも患者さんとすぐに馴染み、患者さんの信頼も厚かったのですが、当初の約束通りご自分の活動で海外に行かれることになりました。また、機会があれば戻って来てくださるとのことです。短期間ですが、本当に助かりました。診療所からも陰ながら応援させていただきます。

今後も、診療所では医師を補充し、皆さんからのニーズに応えられるようにしたいと思います。もうしばらくお待ちください。  
m(\_\_)m

(医師 鈴木 伸)

## 診療所の疾患別患者数の変化

1996 年 4 月、寿町地区の一角にことぶき共同診療所（以下「当院」という）が開設された。現在丸 17 年が経過しましたが、この度、この間の疾患別患者数の変化を調べる機会がありましたので報告します。2000 年、2004 年、2008 年、2012 年とオリンピックが開かれた年の、ある 1 か月間に来院された患者さんのうち、精神科の病名がついている方を対象としました。最初から 3 回目までは田中俊夫名誉院長の粘り強い調査によって、昨年のはクリニック職員総出で調べたものです。表 1 と表 2 を見てください。

表 1 総患者数と疾患別患者数（単位は人）

| 疾患名   | 2000 年 | 2004 年 | 2008 年 | 2012 年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| アルコール | 80     | 156    | 283    | 248    |
| 覚醒剤   | 30     | 77     | 97     | 99     |
| 統合失調症 | 38     | 79     | 154    | 148    |
| 神経症   | 42     | 59     | 127    | 93     |
| 気分障害  | 20     | 78     | 136    | 102    |
| 認知症   | 6      | 16     | 40     | 84     |
| その他   | 10     | 45     | 47     | 162    |
| 計     | 226    | 510    | 884    | 936    |

表 2 疾患別割合（単位は％）

| 疾患名   | 2000 年 | 2004 年 | 2008 年 | 2012 年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| アルコール | 37.0   | 33.5   | 33.8   | 32.2   |
| 覚醒剤   | 13.9   | 16.6   | 11.6   | 12.0   |
| 統合失調症 | 17.6   | 17.0   | 18.3   | 19.3   |
| 神経症   | 19.4   | 12.7   | 15.2   | 12.2   |
| 気分障害  | 9.3    | 16.8   | 16.2   | 13.3   |
| 認知症   | 2.8    | 3.4    | 4.8    | 11.0   |

これによると、受診者数は増加傾向に

あり、最近は微増です。これは、診療所の存在が行政に認知され、医療を必要とする方で、実際に受診に至る方の割合が増えたためと思われます。なお、1 人で 2 つ以上の病名がつく患者さんがいますが、2012 年の場合は、それぞれ疾患を重複して計数しています。重複診断のついている患者数は 2012 年の場合は 98 人でした（11.7％）。

疾患別では、アルコール依存症、覚せい剤精神病の割合が高いことが特徴です。この 2 つの疾患は病因を個人だけに帰することができない社会的な疾患です。寿地区がこれらの疾患にかかりやすい土壌であるというのではなく、他地区や他県で、リストラなどで職と家を失ったり、刑務所出所後に住む場所のない人たちが、野宿等を経て行政の援助により寿地区のドヤに住み、当院を紹介されて受診するためと考えられます。当院は日本全体のセーフティーネットの一つであるともいえます。

また、認知症の割合が近年増えていることが最近の特徴です。寿地区の住民の高齢化への対応として、近隣の介護機関との連携もさらに重要になっていくと思われます。（医師 宮崎伸一）

## 最 近 の 公 園 で は

吉浜町公園に手を入れてから 15 年以上になります。今は土木事務所から委託を受けて公園愛護会として管理にたずさわっていることは、この「たより」で何度か書きましたので、ご存知のことと思います。

長い間に沢山の人々の思いによって、数え切れない数の植物が植えられてすっかり緑化しました。花も季節ごとに何かしら咲いているように、また毎年咲くような宿根草しゆくこんそうを選んで植えるようにしてきたこともあって、年中花の絶えない公園になりました。小さいけれど池もあり、めだかが泳いでいたり、睡蓮すいれんが咲いていたりします。

その代わり、いつでも絶えずやらねばならない仕事があります。掃除、ごみ捨て、水やり、草むしり、花壇の花の植え替え、木の剪定、池の管理などなど。毎週 2 日診療所の職員が 2 名から 3 名出て作業をしています。それに加えて町の人が必要 2、3 人参加しています。これはこの数年、顔ぶれは変わっても続いています。

診療所のデイケアではプログラムとして園芸を取り入れていて、メンバー全員が公園に出て作業をしたり、キャッチボールやバトミントンなどをしたり、ベンチでゆったりしたり、野外での気持ちよさを楽しんでいます。

また、この間プログラム以外にデイケアから毎回何人かのメンバーさんが公園の

作業に参加してきています。また主治医から「公園でこんなことをやっているのやってみませんか」とすすめられて参加してくる患者さんがポツリポツリとあって、やり始めると長続きしてすっかり常連になったりしています。週に 2 日の公園作業の日が第 2 デイのような状態になっています。

最近、周辺に保育園が新設され、園庭がないところもあり、お天気の良い日には毎日のように公園に遊びにきます。4 園ぐらいが来ていると思われます。十分な広さがあり、道路に面していないので安心して走りまわって、声も遠慮なく出せるので、のびのびと遊べます。いつも花壇に花があり、明るい雰囲気公園です。咲いている花を見て、子供達も興味津々です。

また訪問看護師さんやヘルパーさんに車椅子を押してもらって、公園に来てお花をぐるりと見てまわって帰る人も何人かいます。薬局で薬を待っている間、たまたま、この公園に花が沢山あることを知り、毎回見に来るという人もかなりいます。

ベンチで昼間から酒を飲んで騒ぐのは、このごろは見かけなくなりました。ベンチでゆっくり休んでいる人もあり、もっとベンチがあれば、ひとまわり花や木を見たあとゆっくり座って休んでいけるのに、ベンチが少なく残念です。

コンクリートの建物と道路ばかりの寿の

至近距離にあって、土と緑が残されている貴重な場所として維持していくことに努めてきました。「何の木がほしい」「あの花がいいね」と、少ない予算のなかで買ってきたり、また通勤途中で毎日見る花がとてもきれいなブルーで、長いあいだ咲いていて丈夫な感じでいいからと、名前を調べて購入したり、土木事務所からもらってきた結果、今では植物の種類は数えきれないほどになっています。

花の名前をよく聞かれるのですが、すぐに出てこないものが沢山あります。木には名札が付いているものもありますが、花の名前が分かるようにしてほしいなどと言う人もいます。吉浜町植物公園なんて冗談を言い合っています。

以前から改修工事の話があつて、色々取沙汰されているようですが、私たちとしては、これまでの経過を理解してもらい、土と植物の豊かな公園としてあり続けることが出来るよう、この公園にそぐわない人工物はいらないと意見を伝えています。

元々この公園に木を植えた緑政局の人の好みだったのでしょうか、春にはこぶしが真っ白に花を咲かせ、続いて木蓮、<sup>かいどう</sup>海棠、はなすおうのピンクの花が咲き、夏にはさるすべりが咲き、初秋にはきんもくせいの良い匂いがただよい、秋にはメタセコイアが紅葉し、冬にはすっかり葉を落としてしまうというように季節感のある植栽がしてあります。それに加えてさまざまな木や草が少しずつみんなの気持ちで植えられ大切に育てられてきたので

す。

こんなに季節を感じられる公園をこれからも維持し続けられればと、これまで以上に強く思っているこの頃です。

(田中 藤枝)

## 杉本貴美子さん、逝く

### キミちゃん逝く

キミちゃんが逝ってしまった。45 年という、あんなにたくさんの時を共にすごしたのに、君はもういない。

寿で、稲子で、様々な斗いの中で、僕らはずっと一緒だった。胸をはって、時には走り、時にはじっと我慢しながら、一所懸命前へ進んだ。

キミちゃんは、小柳ビルに住み、稲子の「れんげ荘」に住み、寿町の市営住宅に住み、それらの場所は、皆な、僕らの思い出の拠点になった。

一緒に山に行き、海に行き、川に行った。アルプスや八ヶ岳に登り、伊豆の海や稲子の川で泳いだ。そして最後に、大好きな大山の麓の厚木に住み、俳句を作る人になった。気どらない、正直な、優しい俳人になった。

自然に戻っていたキミちゃんに、病いはやって来た。

2013 年 1 月 20 日お別れをした。

寿町で出会った、今はない僕の大好きな人達。宇田君、班長、久松君、そしてキミちゃん……。

どこかで待っていてね。

僕が行くその日迄。

(田中 俊夫)

### 稲子の風景の中に生き、 そして映えた人生

キミちゃんが亡くなって早や五ヶ月が過ぎました。今年も又稲子農場の田ん圃では、五月に植えた稲が緑々と立派に育っています。

人は風景の中に生きるといいます。梅雨空のもと、とぎれることもなく降り続く雨の中ですくすくと力強く成長する稲の緑の田ん圃の中に、とても映えるありし日のキミちゃんの姿があります。自然の中にそっと佇むだけでなく、躍動する生命と共に生きることがとても似合っていたように思われます。

キミちゃんの稲子での生活は、二十数年間に亘る寿町の人たちと共に生き、そこで得たものを更に深め、関係を持続させ共に生きていくものでした。木工職人をめざし、職業訓練学校に通い、そこで良き友人と出会い、青春時代に回帰したような命の輝きをみせていました。又、地元の一級建築士、木工職人のもとに通い、木工職人の仕事の厳しさを感じながらも、新たな自己の創造を求めて奮闘していたようでした。

稲子農場で木工作業をしながら、農場での米づくり、野菜づくりに一生懸命でした。植物の成育に成長に強い関心を



示し、常に真剣でした。無農薬・有機農業を目指す稲子農場では、農薬は一切使わず化学肥料もほとんど使わず作物を育てるので、失敗の連続でした。

キミちゃんは研究熱心で、堆肥の作り方、病虫害対策等をいろいろ考えながら楽しく作業をしていました。自分が育てた作物を収穫するときの喜びようは人一倍で、感情むき出しでした。

卵をとる為の養鶏にも挑戦しました。自然卵養鶏を目指すため、分厚い本を求め、とことん勉強し、ヒナからニワトリを育てることに挑戦しました。ある時には一度に十数羽のヒナを圧死させてしまうという悲しい経験を積み重ね、丈夫なヒナを育てることに成功しました。おいしく、安全な卵を作るため、エサづくりにもとても研究熱心でした。

キミちゃんの稲子での生活は、動物に対して植物に対しても、そこで営まれる生命と深くコミットし、新たな生命をつくり出すというものでした。木工職人への挑戦・有機農業をとおしての生命の営み、そして自然卵養鶏の実践と、小さな身体で全力投球した人生でした。

残念ながら 70 を少し過ぎたところで人生の幕は引かれましたが、稲子という自然の中に身を投じ、まさに生命と生命のせめぎあいの中で放たれた生命の輝きは決して消えることはないと思います。

共に過ごせた二十年、とても幸せなおもいでいっぱいです。

心からありがとうとお礼をいいます。さようなら。

(稲子農場 佐藤 捷世)

---

## キミちゃんに 想いを寄せて(五首)

---

### ○数の子の味付けはとの電話来る病の友が以前の声で

昨年 12 月 30 日、キミちゃんが全力をふりしぼって稲子に来てくれました。もちつきの日です。壁に寄りかかって声もかすれた様子でした。最後の稲子訪問となりました。その時あげた数の子を正月のために料理していることです。本当に前日とはうってかわった元気ないつもの声でした。

### ○手仕事を好みし君の差し出す手病みてもいまだ節太き指

木工をやりました。梅干しやきんとん、ジャムもよく作りました。洋裁や編物もしました。れんげ荘のふきんや雑巾もたくさん縫っておいてくれました。

### ○柩より離れて君は祭壇の写真の中でほほえみかける

とても良い笑顔の写真でした。手元には、息子一貴君の娘ふうちゃんを抱いていたとのこと。



## ○なにもかも白く輝く冬日和友 の葬りの喪服を干せり

長い間縁側に坐っていました。この喪失感は忘れません。

## ○畑仕事終えて軍手の土払う君 の仕草をまねしてみたり

きれい好きなキミちゃんでした。

早いもので、キミちゃんが亡くなってもう五ヶ月が過ぎます。私にとってはお姉さんのような存在でしたので、頭の上の重しがなくなったような気がします、ふらつかないで稲子の四季を見守り、キミちゃんの分も楽しんでいきたいと思います。

(稲子農場 佐藤 八洲子)

---

## きみちゃん、ありがとう！

---

新しい年も明けた1月6日、悲しい知らせが入りました。

杉本貴美子さんが71年の人生に幕を閉じました。

1年前の1月16日のきらくサロン(於: 寿地区高齢者ふれあいホーム「木楽な家」では寿地区社会福祉協議会主催で月2回行なわれている)で、「ちょっと調子が悪いし、熱っぽいから帰るね」と言って準備だけをし、帰りました。その後体調が戻らず臍臓が悪いということが分かり、そして手術、自宅療養・・・。

子どもからも大人からも「きみちゃん、き

みちゃん」と呼ばれ、親しまれていました。私が寿に来た1986年は、女性は数えるくらいでした。その中の一人が杉本さんでした。生活館の4階の管理人をしていました。生活館4階は職場も男性ばかり、利用者も男性がほとんどで、その中で長年働いていました。「ことぶき共同保育」で子どもと一緒に生活しながら、寿で生活する女性のことを気にかけていました。また精神障がい者の居場所づくりにも加わり、「ろばの家」の運営にも関わっていました。そして学童保育運営委員長、民生委員、寿地区社会福祉協議会会長を務めていました。特に「きらくサロン」では、「きみちゃん」の笑顔に利用者やボランティアがどんなに励まされていたことか。

頑固で芯が通っていて、やさしく包容力のあるきみちゃんは、寿のお母さんだったんだなあと思います。昔々、カラオケできみちゃんが歌を歌いました。なんと曲の題名は「女の意地」でした。私が聞いた歌は後にも先にもこの1曲だけで、忘れられません。私はきみちゃんの人生に圧倒されていました。わたしにとってはかけがえのない「師」でありました。きみちゃんがいることでどこかで安心していました。今でも傍にいて「しっかりしなきや駄目だよ」といわれているような気がします。

きみちゃんは寿に来る前にNTTの社員だったということは知っていました。しかし偲ぶ会で、きみちゃんは解雇され労働組合を組織し闘っていたことをはじめて知りました。その姿は想像できます。そう

いうことを知るとますますきみちゃんの生き方に魅かれていきます。

40 数年住み慣れた寿を離れご兄弟の住むところへ居を移しました。本当のところ寂しく思いました。けれども、遠い地から電車を乗り継ぎながらサロンだけには参加していました。病に倒れ、最後はお嬢さんたちご家族と一緒に過ごし、お孫さんたちに囲まれた生活で、とっても幸せだったと思います。3 年前から俳句を習い始めたきみちゃん。きみちゃんの遺した句集の中に『俳句』とは余計なものをそぎ落としていくという言葉の表現の仕方に魅かれた」と書いてありました。生きるということは余計なものをそぎ落としていく作業かもしれないときみちゃんの生きかたから教えられたように思います。

きみちゃんの遺志は、今尚寿の町に生き続けています。きみちゃん、ありがとう！

ご冥福をお祈りいたします。

(寿地区センター 三森 妃佐子)

---

### ありがとうございます

---

また、寿の大切な人がいなくなってしまった。このだよりに載っている写真を見て、改めて感じてしまいました。

きみこさんは、生活館のきみこさんであり、稲子のきみこさんであり、診療所のきみこさんであり、作業所のきみこさんであり、木楽な家のきみこさんでもあり、寿関係のあらゆるところに貴美子さんはいました。そして、そこにいつも存在してくれていたのです。時に鋭い目は、暖かく抱擁

してくれる目でもありました。

貴美子さんとはよくお話をしたわけでもなく、濃密に付き合ったわけでもないけれど、でも、私の大切な瞬間に、貴美子さんは存在していました。

私が診療所の職員になる話が出たとき、実は結構悩んでもいたのです。「私の希望だけで、診療所に来ていいのか、皆の合意がとれているのか。担う人になってしまっているのだろうか・・・。」などなど、頭でっかちに考えていたとき、「とりあえず、やってみたら」と後押しをしてくれたのは、貴美子さんでした。とりあえずはじめちゃうなんて、そんなこと・・・、とは思って見たものの、吹っ切れちゃったんです。きみこさんの微笑んだ表情を見て、安心したからかもしれません。私の弱さを見透かされてしまったことに動揺もしましたが。

私の転機の際にそんなことが、何度かありました。

感謝です。

いつでも暖かく見守ってくれていただき、ありがとうございます。

(矢島 雅子)

---

### キミちゃんとの別れ

---

長かった寿の生活から、住居を自然の豊かな厚木に移して、やっと穏やかな暮らしをしていたキミちゃんに、突然大きな病が襲いかかり、あっという間に、戦い敗れて病にさらっていかれたという感じ、奪

い去られたという感じで、口惜しいかぎりです。とても前向きで、心配する私たちに、大丈夫だからと頑張って、1 年経たずに逝ってしまいました。キミちゃんがないことが実感として受け止めきれず、半年たって先日の稲子の田植えの時、ああもう田んぼでキミちゃんの姿は見ることはないのだなあと、その不在をいたく感じています。

キミちゃんとの出会いは、1973 年に寿で共同保育を始める時の、準備の段階からでした。港北区の団地から 4 歳と 2 歳の子どもを連れて引っ越して来たのが、キミちゃんの寿人生の始まりでした。それから 40 年ずっと仲間でした。私は 1965 年から寿に関わって、私の二人目の子どもの産休明けから寿共同保育が始まりました。

共同保育は、子ども達を地域で育てようとして、親だけでなく、様々な立場の人が参加していました。男女を問わず、仕事もさまざまでした。常勤で働く人、日雇労働者、生活保護の人、子どものいない一人暮らしの人が参加していました。地域の子どもも、いろいろなかたちで参加していました。

日雇労働者の運動が激しくなり、共同保育も連帯して、独自の赤旗を作り闘いに参加していきました。キミちゃんは、長い間勤めていた電話局の交換手を辞め、日雇の仕事に行っていた時代もありました。

私たちが寿生活館を占拠していて、行政機関としての業務が 3 年以上停止し

ていましたが、地元と横浜市との合意が成立して、寿日雇労働者組合と寿共同保育は退去して、生活館が現状復帰した時に、4 階の職員に女性をという地元側の要請により、キミちゃんが 4 人の中紅一点で入ることになりました。2 階の市の職員にも女性はいなかったのも、その存在は大きかったと思います。町の女性の問題、精神障害者のことを、特に手がけていきたいと言っていました。

有機農業と精神障害者にとっての農業ということを考え、秦野に農場を設立した時も一緒でした。そして 7 年余りして稲子に農場は移転しましたが、同じ所に障害者とその仲間達の家を建設を企画し始めて、2 年間で 1500 万円のカンパが集まり、れんげ荘が完成、その時点で共同保育が稲子に移転することになりました。れんげ荘の住人の宇一郎さんも一緒でした。キミちゃんは生活館を退職して稲子へ移りました。

稲子に行ってから、半年間静岡まで職業訓練校の木工科に通い、また、知り合いからの手ほどきで養鶏を仕事として始めたりもしました。

診療所の開設の時は、毎週稲子から車で来てくれて最初の職員として受付やレセプトを担当してくれました。

10 年間の稲子での活動に終止符を打つことになったのは、まだ寿で一人暮らしをしていた息子さんが調子を崩したのを心配して寿に戻ったのがきっかけでした。しばらくして寿福祉作業所の職員として、また寿で働き始めました。民生委員の仕

事もやり、60 歳を過ぎても元気でした。数年前、作業所をやめて、長い間住んでいた市営住宅から、厚木に住み替えたのです。

なんでこんなに長々と、キミちゃんの辿ってきた道のりを書いてきたのかというと、私はこの 40 年間、やることが違っていても、いる場所が違っていても、相談相手で、いつも仲間でした。ずーっと。一ヶ月も二ヶ月も会わなくても、いつも連絡は取り合っていたものです。

共同保育のキミちゃん、生活館のキミちゃん、福祉作業所のキミちゃんなど、出会った時期によって、それぞれ、キミちゃんの印象があると思います。けれども、私にとっては、40 年間ずっと同じ「キミちゃん」なのです。

若い頃は、髪を長くしていて、美人で、余り自分の意見を言わず、深く考えているひとと思われ、女性の私から見てもとても素敵な人でした。

今にして思えば、彼女はほんとうに正直で、まっすぐで、裏表がなく、理念に沿い、ほとんど迷うことなく歩きつづけてきたのだと思うのです。しかも、いつも一生懸命でした。私自身のことを棚に上げて言えば、キミちゃんは決して器用なタイプではなく、うまくいかないこともあるのですが、この道ときめると、かけひきなく本当に一生懸命でまっすぐにやり通すのです。

キミちゃんがどう考えているのかは、いつも私にとっては大事なことでした。でも、これは、もしかしたら私の長い片思いだったのかもしれない。

よく二人で、共同保育のことはいずれちゃんと総括しなければと語り合っていました。いってみれば、40 年間のつながりは共同保育のつながりなのです。キミちゃんは、初めに掲げた思想、理念に従って、いつでもそれを根において、誠実に、そして自分に正直に生きてきたのではないかと思います。同志が一人逝ってしまったなあという気持ちです。

でも最後の半年、長女の家族、特に孫達、仲の良い自分の姉妹達に囲まれて過ごすことが出来て本当に良かったと思います。自宅から見える大山と一緒に登ろうと言っていたのは実現しませんでした。ばあさん同士、まだまだいろいろとやっていこうと思っていたのに、先にいってしまっただめじゃないの。

お墓の富士霊園にこの前行ってきました。私もいずれ富士霊園ですので、山あいの眺めの良い墓園の墓友に、またいずれなるので、その時はよろしく、待っていてね。

(田中 藤枝)

# “診療室から”(31)

## 月に二回のご挨拶

患者さんたちは、2週に1回の受診の人がほとんどです。さらにDOTSのため、毎日来ているけれど、私が会うのは週1回の外来日、という頻度の受診の人もちらほら。初めて来たときには、自分の今までの外来のペース(4週1回、または6~8週1回)と違うので、戸惑って、こんなに受診が要るかなあ?と考えたりしました。安定している患者さんたちとは、すっかりお馴染みの『月に二回のご挨拶』状態になっています(笑)。

でもやっぱり、この「お馴染みさ」が、こと共に大事なことの一つなんだろうな一、と今は思います。本当は入院が必要そうな、でも入院したくない人でも、ドヤからの毎日の通院で、なんとかなってしまうたり。精神科だけでなく内科関係の病気も改善していくのが、凄いなあ、と思います。

ちよくちよく顔を見ることが出来、さらに、こと共ではバイタルサイン(血圧、脈拍、血中酸素濃度)や体重を、自分で測って診察するので、患者さんに触れる時間も増えるため、普段と様子が違うことに対しては、こちらのアンテナも鋭くなっている気がします。実は触れることで、患者さんの体調を側で感じられて、私自身も安心している感じです。週1の外来でもそう感じるので、DOTSで毎日顔を見ていたら尚更だろう、と思います。

例えば、慢性心不全のAさんや、よく高アンモニア血症になるBさん、糖尿病性ケトアシドーシスを繰り返すCさんなど。普段と息づかいや受け答え、検査の数字(血圧、血糖)が違うと、看護師さんが教えてくれたり、外来で気づいて、治療に繋がりました。

こと共で出会った患者さんは、丈夫に見えても意外にあっけないお別れになることもありました。今日、ちょっと調子が悪い?と思って申し送ったら、次の日に再受診したときには入院になって、その後亡くなっただらいいよ…と、1週間後の外来日に聞いたこともあります。今日の「ちょっと変?」が、最後の診察にならないように。普段の、お馴染みの様子と違ってないかに気を付けながら、月に二回のご挨拶を、また続けていきたいです。

(弓野 綾)

## 職員自己紹介

結城 陽子

今回、自己紹介の依頼を受け、名乗る様な者ではないのに、恥ずかしい!!という気持ちでした。しかし! 大好きな矢島師長様の依頼でしたので、断る事も出来ず、こうして書く事になりました。

私は、以前精神科の病院に8年間勤務していましたが、自分の中に楽しみを見つける事が出来ず、それであれば嫁いだ家は舅から始まった床屋。今は夫も理容師になり、20数年経ち、ここ迄きたならば息子に3代目になってほしい!という欲望が湧き、その為に

は、私が夫を支えないと、と思い、私自身も理容師資格の取得を決意し、退職しました。

ですが、学生・主婦になったものの、お金が無くては生活して行けない状況。パート探しに困っていたそんな時に、ことぶき共同診療所院長鈴木 Dr. にお声をかけて頂きました。初めはとまどいがありました。生育・結婚後、横浜市鶴見区、神奈川区、港区で30年余り、寿町に一步も踏み入れる事なく、ダークなイメージを抱いていた私が働くとは思ってもなかったです。

が!! 信頼できる(?)鈴木 Dr. のお誘い、そして面接での初対面の私に気さくに距離なく話しをしてくれる師長様に心を奪われ、こんな素敵な方と一緒に仕事をしたいと思い、私の不安感は何処かへ行ってしまいました。

今は、私の出来る事を頑張って行きたい! と思います。宜しくお願い致します。

## 寿町地域ニュース・あらかると

(’12年11月～’13年6月)

【国の貧困対策】社会保障審議会「生活保護基準部会」が報告書を公表[1.16]／同「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」が報告書を公表[1.25]／政府、8月より3年間で生活扶助費 7.3%削減することを決定[1.27]／子どもの貧困対策推進法成立[6.19]／生活保護改正案・生活困窮者自立支援法案廃案[6.26] 【寿地区 PT】横浜市、部局横断で寿町対策プロジェクトチームを組む方針[1.10 毎日新聞] 【生活保護】横浜市、生活保護利用者向けに「仕事チャレンジアシスト事業(受託・勤労協)」「ことぶきアパート生活移行支援事業(受託・さなぎ達)」を始める[4月]／中区役所に生活保護利用者の就労支援を行う窓口「ジョブスポット」開設[4.15]／第2回神奈川県生活保護不正受給等防止対策連絡会 [5.20] 【野宿者】1月実施の全国調査によれば横浜市内の野宿者は581人(内男性566人女性15人)[4.26] 【住宅手当】住宅手当緊急特別措置事業が住宅支援給付事業に名称変更(支給要件も一部変更)[4.1] 【医療】石川町内科クリニック開院(松影町1-3-7)[4.8] 【介護】横浜市、寿町介護予防策として看護師による戸別訪問開始[5.31 東京新聞] 【簡易宿泊所】(仮称)山一ビル新築予定(寿町1-1-5) [’12.11.1以降解体]／(仮称)長者町1丁目簡易宿泊所新築予定(長者町1-1-13)[2.6]／川崎市、新規建設の簡易宿泊所について住宅扶助費を減額する方針[3.7 神奈川新聞]／豊荘改築中[3.21]／(仮称)扇町4丁目簡易宿泊所新築予定(扇町4-12-2、12-3)[4.6] 【総菜店】マルキンストアー閉店[’13春] 【NPO】さなぎ達、さなぎの家移転[’13.12]・就労継続支援B型事業所「てふてふ」開設(翁町1-6-4) [’13.12]／神奈川県のチャリティアクションキャンペーン「世にや押し太鼓判プロジェクト」に登録される[1月]

※ 寿町に関係する国の政策等も一部含まれます。

(寿町関係資料室 松本 一郎)

# 診療所日誌 ‘12年12月～‘13年6月

## 12 月 入院の多い冬です。

- 12 月 5 日 患者 E さん、入院先の病院で亡くなる。ローソン前でガリガリくんを食べる姿はもう見られません。
- 12 月 14 日 診療所忘年会。1 年間お世話になりました。
- 12 月 15 日 デイケア、音楽の講師の方たちによる音楽会。
- 12 月 18 日 グッピーさん、年末年始のため自宅へ帰る。
- 12 月 21 日 デイケア、クリスマス会
- 12 月 26 日 公園愛護会の写真コンクールで職員川崎さん、銅賞受賞。
- 12 月 27 日 待合室で痰を詰まらせた患者さんがおり、医師 3 名で救急対応。

## 1 月 インフルエンザ、今年も流行です。

- 1 月 4 日 田中医師の平塚病院時代からの患者さんの訃報が届く。
- 1 月 8 日 デイケア K さん、落ち着かず、主治医との連携密にする。
- 1 月 10 日 患者数 280 名。最高記録更新です。
- 1 月 16 日 デイケア、ろばの家と合同で恒例の餅つき。
- 1 月 20 日 診療所の発起人でもある杉本貴美子さん亡くなる。開設当事の受付嬢でもあり、デイケアでの稲子の行事の時にもお世話になりました。

## 2 月 患者さんの入院が多いです。高齢の方も増え、寒さも重なり・・・。

- 2 月 6 日 デイケアでインフルエンザが大流行。
- 2 月 14 日 秋田県の職員さん診療所の見学。
- 2 月 9 日 デイケア、ドックセラピーを行う。触ったり、お散歩に行ったりとメンバーさんの落ち着いた笑顔が見られました。
- 2 月 27 日 デイケアでサーカスを見に行きました。

## 3 月 DOTS の患者さんの訃報相次ぐ。

- 3 月 1 日 患者 N さん、食べられないと診療所へ救急搬送。体中便まみれでした。
- 3 月 5 日 グッピー 2 匹死んでしまう。グッピーを管理している患者 T さんは他の人とも交流が持てるようになりました。
- 3 月 12 日 全生活史健忘の患者さん、立ち寄った警察で捜索願が出されていることが分かり、自宅へ戻る。

## 4 月 医師の診療体制が変わりました。

- 4 月 1 日 患者 I さん、診療所の職員が 5000 円よこせと脅すと 110 番通報。警官あきれて怒る。

- 4 月 2 日 大類医師、火曜日午前に診療開始。
- 4 月 12 日 患者 I さん、体調不良で入院。検査の結果お腹から 100 円玉発見。
- 4 月 18 日 患者 U さん、落ち着きない。毛染めで全身真っ黒で登場。
- 4 月 25 日 デイケア、4 月にオープンした「みはらしポンテ」までお散歩。

## 5 月 消毒はしていますが、南京虫の成長の方が早いです。

- 5 月 1 日 I さん、ダルクの計らいでダルクハウスに入る。DOTS に来ていた A さん、入院先の病院で亡くなる。きれいな雑巾を何枚も手縫いしてくれました。
- 5 月 2 日 患者さんの入院の付き添いで町田まで。連休中の道は大渋滞です。国際医療福祉大学の学生 5 名来所。
- 5 月 7 日 連休中スリップしている人多数。居所が決まらない I さん、救急車を何度も呼んだり、道でウンチをしたりと大騒ぎ。
- 5 月 21 日 DOTS に来ていた F さん、見守りに行くと倒れており、救急搬送。脳梗塞だった。
- 5 月 23 日 デイケアの S さん、作業所へ通所し始める。デイケアも徐々に卒業できるといいですね。
- 5 月 25 日～26 日 デイケア、稲子へ田植えに。

## 6 月 ターミナルの方、訪問看護師さんやヘルパーさんに支えられ、ぎりぎりまで在宅で頑張っています。

- 6 月 5 日～7 日 松本から高校生が寿見学に見える。ヘルパーさんは訪問看護の同行も体験し、アルクの方のお話も聞かせて頂きました。ご協力ありがとうございました。
- 6 月 8 日 在宅でターミナルの M さん、「降参しました」という感じでやっとのことで入院へ。
- 6 月 11 日 デイケア、海の公園までお散歩。雨に当たってしまいました。
- 6 月 18 日 デイケア W さん、金銭管理を行っていたが、値段を上げた途端スリップ。
- 6 月 21 日 毎年おなじみの K さんグループ 15 名見学に見える。
- 6 月 22 日 入院中のデイケア M さんのお見舞いへ
- 6 月 25 日 デイケア、南京虫騒ぎは続いています、今度はしらみ大発生。
- 6 月 27 日 8 日に入院された M さん、入院先の病院で亡くなられる。
- 6 月 29 日 在宅ターミナルの S さん、職員同行で高島屋へ買い物。

(矢島 雅子)



# 医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 心療内科  
内科 整形外科 鍼灸  
診療所

|   | 9時30分     | 12時   | 14時       | 17時                     |
|---|-----------|-------|-----------|-------------------------|
| 月 | 休 診       |       |           |                         |
| 火 | 田中・鈴木伸    | 屋 休 み | 田中・鈴木伸    | 精神科・神経科・内科              |
| 水 | 土屋・熊倉     |       | 土屋・熊倉     | 精神科・神経科・心療内科・内科         |
| 木 | 鈴木伸・大脇・土屋 |       | 鈴木伸・大脇・土屋 | 精神科・神経科・心療内科・内科<br>整形外科 |
| 金 | 田中・鈴木伸・土屋 |       | 田中・土屋・弓野  | 精神科・神経科・心療内科・内科         |
| 土 | 鈴木伸・土屋    |       |           |                         |

鈴木美奈子(エコー検査)土曜午前・月2回、三橋(整形外科)土曜午前・月1回、  
野本(循環器科)土曜午前・月1回

## 鍼灸院

(鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

|   | 9時45分 | 13時   | 14時   | 18時 |
|---|-------|-------|-------|-----|
| 火 | 新井・佐藤 | 屋 休 み | 新井・佐藤 |     |
| 水 | 新井・富永 |       | 新井・富永 |     |
| 木 | 新井    |       | 新井    |     |
| 金 | 新井・佐藤 |       | 新井・佐藤 |     |

### ○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者自立支援法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

### ○心理判定

### ○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

### ◇共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17  
リバーハイツ石川町 1・2F

### ◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)

(045) 305-4322 (鍼灸院)

### ◇e-mail info@kyoudouclinic.com

### ◇ホームページ

<http://kyoudouclinic.com>

2013年7月5日現在